

# 令和3年度学校自己評価システムシート ( 県立大宮武蔵野高等学校 )

目指す学校像	1 高い目標を持ち、自らの夢を実現できる生徒を育成する学校 2 社会で活躍できる生徒を育て、地域が誇れる学校
--------	-----------------------------------------------------------

重点目標	1 生徒一人ひとりの学力の向上を目指した授業改善の取組 2 第一志望実現に向けた系統的な進路指導の確立 3 基本的生活習慣の確立とマナーアップ、生徒の自主的活動の一層の充実 4 地域に信頼され、地域に貢献できる生徒の育成
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	0名
	事務局(教職員)	2名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標			年 度 評 価 ( 1 月 2 0 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<b>【現状】</b> ・学習習慣のない生徒が多い。 ・生徒の学習意欲や学習に対する理解度に関がある。 <b>【課題】</b> ・教材研究を深め、興味関心を高め、学習の楽しさに気づかせる必要がある。	生徒の基礎学力の定着、学習意欲の向上と授業改善に向けた取組	①授業公開週間を活用し、各教科で授業改善のための意見交換を行う。視聴覚教材を活用し、興味関心を引く授業を実践する。 ②分かる授業実施のため、生徒アンケートにより学習状況を把握し、授業実践につなげていく。 ③各種検定に積極的に参加させ、補習や検定試験の充実による支援を行う。	①各教科における授業改善に係る取組状況。 ②アンケートによる生徒の授業認識における前年度比。欠点保持者数の減少。 ③補習授業や各種検定試験等の受検状況と成果。	①授業公開週間を年2回実施。その後、各教科で情報集約と職員会議で全体共有を行うことができた。 ②生徒アンケート R3.12 (生徒の授業認識) ・分かりやすさ 81%→81% ・授業への興味・関心 83%→85% ・授業への集中度 93%→95% ②欠点保持者数(1・2学期)は前年比で約13%減。 ③各種検定試験受験者数は前年比並みであった。	A
2	<b>【現状】</b> ・進学が約84%、就職が約6%。 ・専門学校への志望者が増加。 <b>【課題】</b> ・進路未定者が約9%おり、特に女子の比率が高い。	明確な進路意識を持たせ、それぞれの志望分野に応じたきめ細やかな進路指導の実践	①進路希望実現のための具体的な行動を促すため、目的を明確にした総探や進路面談、三者面談を行う。 ②進路意識を高めるため、進路資料室、「進路のしおり」を積極的に活用し、現実の自己を理解させ進路設計に結びつける。 ③各学年の課題に応じ、ガイダンスや講演会などの進路行事をより充実させる。	①生徒の進路実現状況。 ②アンケートによる生徒の進路指導における充実度2ポイント増。 ③生徒の進路意識や取組状況の変化。	①コロナ禍により学校見学などの活動ができなかったが、学年と進路指導部が緊密に情報交換を行い、12月末現在91%超の生徒の進路が決定している。 ②生徒アンケート R3.12 (進路指導) ・進路補習等の指導の充実 86%→81% ・進路指導の充実 90%→84% ③1・2年とも進路講演会や外部講師によるガイダンスにより、新たな分野に興味を持つ生徒が増え、多くの生徒が進路意識を高めることができた。	B
3	<b>【現状】</b> ・登下校時の服装。 ・年間の遅刻総数。 ・登下校時や電車内でのマナーに課題がある。 <b>【課題】</b> ・マナーアップや本校生としての自覚を持たせる継続的な指導が必要である。	基本的生活習慣のさらなる確立  規範意識のさらなる向上とマナーアップ	①生徒指導部や各学年で情報共有を図りながら、定期的及び日常的な整容指導を徹底する。遅刻数の更なる減少を図るため、教務部と連携を強化し出欠状況を把握しながら遅刻指導を継続的に実施する。 ②道徳心を育てるため、集会の講話や日常的な声掛けを通して挨拶や言葉遣い、SNSの使い方などの指導を行う。 ③登校指導、交通安全指導を継続的に実施し、登下校時のマナーアップを推進する。	①整容指導対象者数の状況。遅刻数の前年度比。 ②生徒指導案件発生数の前年度比。 ③交通事故発生件数の前年度比。アンケートによる生徒のマナー意識。	①定期的な整容指導により、指導対象生徒は減少している。遅刻についても今年度から遅刻防止強化週間を設定し、学校全体で取組を行い、成果が上がっている。 ②生徒指導案件(12月まで)は前年比並みであった。繰り返し指導を受ける生徒はいない。 ③交通事故発生件数(～12月)は4件(前年4件)。 ③生徒アンケート R3.12 (生徒指導) ・学校外でのマナー意識 79%→80%	B
3	<b>【現状】</b> ・生徒会を中心に生徒が責任をもって委員会活動に参加している。 ・学校祭やスポーツ大会など、分校との交流が深まっている。 <b>【課題】</b> ・部活動の活性化を図る。 ・生徒会など生徒が主体的に活動できる環境づくりを進めていく。	生徒の自主的活動のさらなる充実	①学校行事について、分掌間で連携し、コロナ禍における実施方法等について工夫改善を行っていく。 ②分掌と各専門委員会との連携を強化し、生徒の主体性と委員会の活性化に取り組む。また、特別活動指導部と学年が協力し、部活動の継続を全体で啓発していく。 ③教員や生徒同士の交流機会を増やし、分校との連携を深め交流行事の充実を図る。	①アンケートによる生徒の学校行事における充実度2ポイント増。 ②部活動加入率の状況。部活動体験会実施状況。 ③交流事業における生徒会同士の連携とその成果。	①学校行事では感染対策を徹底し、分掌や学年が協働し工夫しながら実施した。生徒会本部役員も生徒総会や学校説明会など主体的に運営に携わった。 ①生徒アンケート R3.12 (学校行事) ・学校行事における充実度 64%→68% ②部活動加入率は年度当初 66.7% (前年比 5.1%減)。部活動体験会はコロナ禍で中止となった。 ③スポーツ大会や分校交流事業、文化祭パネル作成などを通して、互いの生徒同士の交流が活発になっている。生徒からも満足度の回答が9割以上あった。	B
4	<b>【現状】</b> ・HP等の情報発信や地域との交流を継続的に実施している。 ・PTA活動が活発である。 <b>【課題】</b> ・学校の情報の提供方法などを全教員で共有化を進め、効果的な広報活動を行う。	教育活動における情報発信の充実  地域貢献を通し、信頼される学校づくりの推進	①情報発信の活性化を図るためHPの更新を多くの職員で行うためのルールを策定する。 ②コロナ禍における学校説明会の実施方法について工夫改善し、その効果を生徒募集につなげる。 ③地域行事への生徒及び教職員の参加による地域への貢献、協力を実践する。	①HPの掲載・更新閲覧状況。 ②学校説明会等参加者数や実施状況。 ③地域行事や交流事業の参加状況。	①各分掌、学年、部活動と協働しHPを通して、情報発信を積極的に行った結果、閲覧数が大幅に増えた。 ②学校説明会では、動画やインタビューなど生徒の様子を様々な形で伝えるよう工夫を行った。中学校訪問は管理職が行った。 ③多くの地域行事が中止となったが、学校評議員会や地域懇談会等では貴重な御意見もいただいた。	A

学 校 関 係 者 評 価		
実施日(意見集約)	令和4年2月25日	
学校関係者からの意見・要望・評価等		
・授業への集中度が95%であるのに対し、わかりやすさが81%、授業への興味関心が85%と、乖離が生じている。教師からの一方的な授業ではなく、生徒自ら考えさせ、自分の意見を発表する場面を増やし、生徒が主体的に参加できる授業も効果的だと思う。 ・授業の分かりやすさが昨年度同様81%、授業への興味・関心も昨年を上回る85%に達しており、先生方の努力の賜物と高く評価したい。今後は、授業が分かることでどういう力がついたのか、何ができるようになったのかを自覚できる授業を目指してほしい。		
・進路指導の充実等に対する意識がやや下降している点に気になる。進路指導は日々の授業内での学びの上に成り立つものであり、授業で身に付けた能力が自分の将来にどのように生かされていくのかを実感させることで、進路意識を明確にしていくことにもつながっていくと思う。 ・コロナ禍で進路指導の充実等が思うように進まなかったと思う。オンライン等での進路学習等を検討するとよいと思う。		
・服装や遅刻、登下校時や電車内のマナーについて、教師からの指導だけでは改善は難しい。生徒会が中心になり、問題について検討する機会を設けることが必要であると思う。 ・生徒指導は安定しており、学校外の生徒指導にも目を向けている点もよいと思う。 ・コロナ禍で基本的生活習慣の確立に向けた指導はこれまで以上の困難が推察される。学校への帰属意識、武蔵野高校の看板を背負っているという意識をもつことも重要と考える。「本校生としての意識」が80%と高まっている点は、先生方のご苦勞の賜物と高く評価するとともに、一層の充実を期待したい。		
・コロナ禍で学校行事等が制限され、生徒の自主的活動を充実させることは大きな困難がある。その中で、学校行事における充実度がアップし、入学したことに肯定的な感想が増えている点は、学校全体の取組の成果として高く評価したい。また交流事業における生徒の満足度が9割以上あり、今後も分校や地域交流を積極的に行うことにより、学校行事における充実度も上がることを期待できる。 ・生徒の自主的活動を重視し、校務分掌間の連携により、生徒の学校行事の充実度がアップしている事は素晴らしいと思う。		
・HPの発信だけでなく、ツイッターなどSNSを活用した情報発信も有効であると思う。日々の生徒の様子や学校行事をタイムリーに発信することで、地域から協力が得られる可能性もあり、学校PRにも有効であると思う。 ・学外の人との直接的な交流はかなり制限がある。今後は学外の活動と学内の授業を結び付けるなど、より一層の充実を期待したい。		